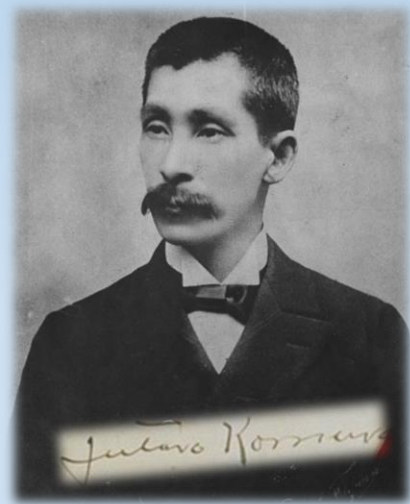
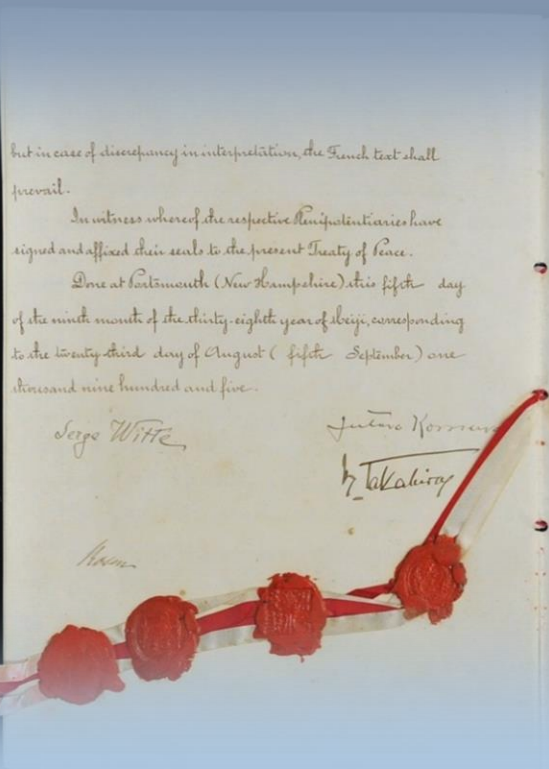


外務省外交史料館・小村寿太郎侯奉賛会（日南市）共催展示

小村寿太郎と ポーツマス条約



2024年

11月2日（土）～12月1日（日）

会場：小村寿太郎記念館

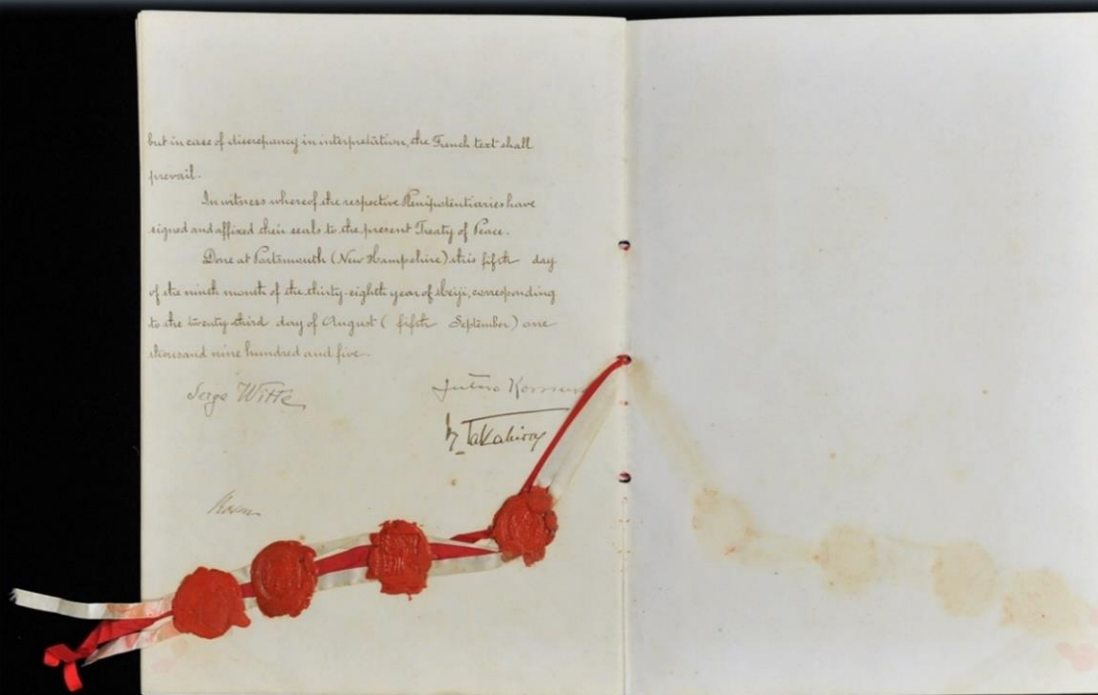
宮崎県日南市飫肥4-2-20-1

TEL (0987) 25-1905

ポーツマス条約の原本が
小村寿太郎記念館にやって来ます

今年(2024年)は日露戦争開戦から120年の節目の年に当たります。この未曾有の難局に立ち向かい、ロシアとの講和をみごとに成し遂げ、戦争を終結に導いた外務大臣こそ、宮崎県出身の小村寿太郎です。

外務省外交史料館では、日露戦争の講和条約である「ポーツマス条約」の調印書とロシア側批准書を所蔵しています。今回の展示では、この2つの原本を小村の生誕地である日南市飢肥に運び、小村寿太郎記念館において展示します。この機会に条約の原本をご覧いただき、小村寿太郎の活躍に思いを馳せていただければ、これにまさる幸はありません。



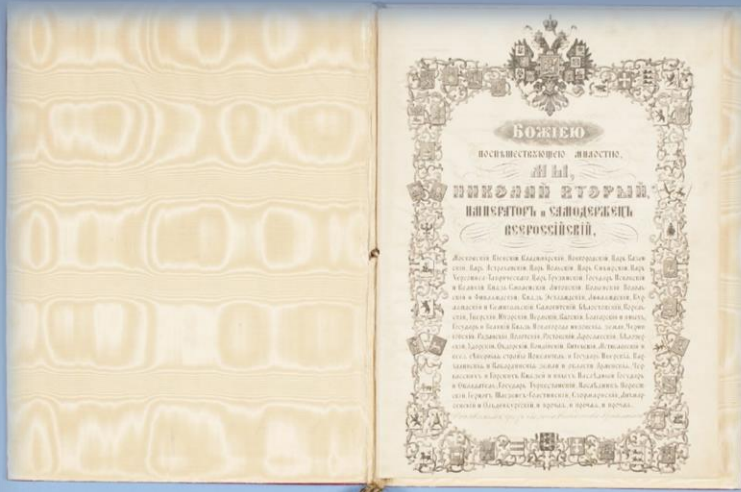
日露講和条約(調印書・署名部分)
1905(明治38)年9月5日調印
末尾に両国全権4名の署名があります。



講和会議の様子
日本側手前から3番目が小村全権

アメリカのルーズベルト大統領の仲介によって、同国のポーツマスで1905年8月10日から講和交渉が行われ、17回の会議を重ね、9月5日に日露講和条約が調印されました。一般に「ポーツマス条約」と呼ばれます。日本側署名者は、小村寿太郎と高平小五郎(右上と右下)、ロシア側がウイッテとローゼン(左上と左下)です。

この条約によって両国に講和が成立し、18か月以内に鉄道守備隊を除く両国の全軍隊は満州から撤退することとなりました。またロシアは韓国における日本の指導権を認め、旅順・大連の租借権、長春以南の鉄道とその付属の利権、南樺太を日本に譲渡しました。

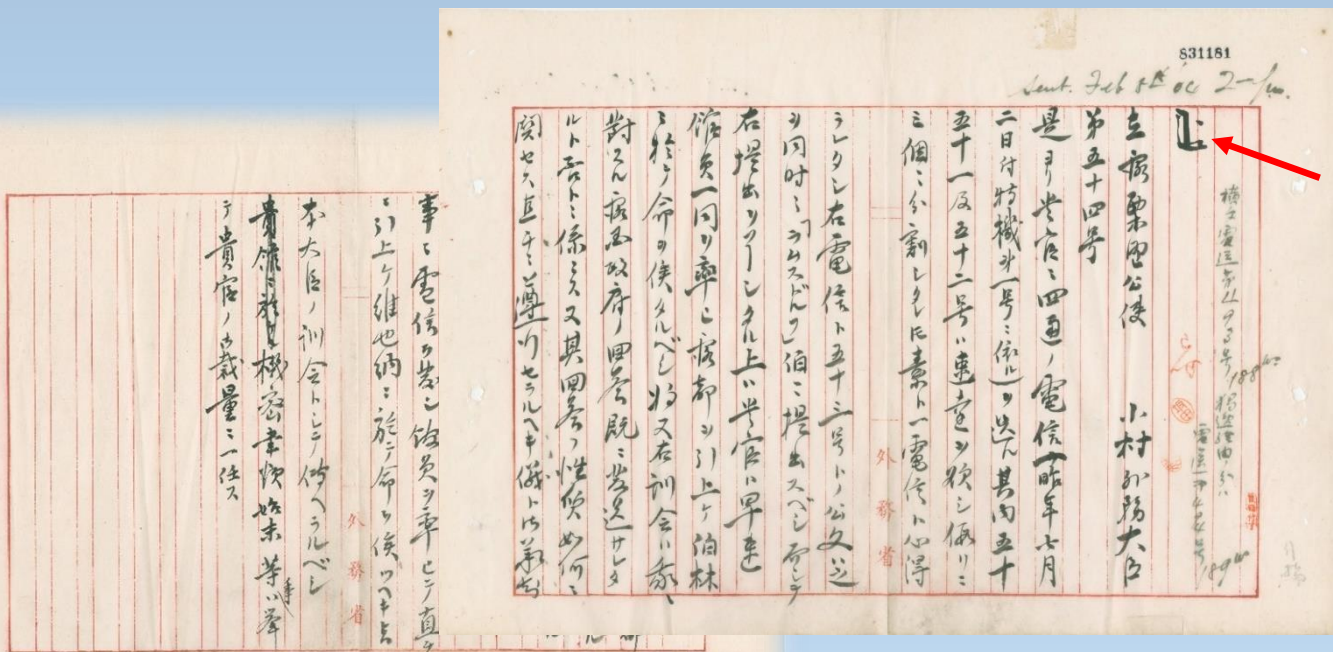


日露講和条約
(ロシア側批准書)

批准書は条約内容について国家元首や議会の同意・承認がなされた際に作成される公文書です。

このロシア側批准書は1905年11月25日に日本側批准書と交換され、これによって条約が発効しました。

付属する金属の缶は「蠟缶(ろうかん)」と呼ばれ、綴じヒモを缶に通し、ロウで固めてヒモを固定します。欧米の条約書に一般に見られる形式で、これ以上手を加えないという意味を示しています。ロウの表面には国璽(こくじ・国家の表章として押す官印)が押されており、フタにも国璽と同じ文様が付されています。



小村外相より栗野駐露公使宛て電報
1904(明治37)年2月5日発

日露講和条約の調印書・批准書以外に、日露戦争開戦時の史料として、東京の小村外相からロシアに駐在する栗野公使へ送った電報を展示します。開戦に先立ち、ロシアへ国交断絶を通告するよう命じた電報です。小村外相が実際に手に取って内容を確認したもので、発電を許可した直筆のサインがあります。ロシア政府への通告を完了した後、公使館員は直ちにドイツのベルリンへ引き揚げるよう命じており、小村外相の用意周到な措置ぶりがうかがえます。



小村外相のサイン

今回の展示では、残された貴重な写真をもとに、小村全権一行のポーツマスにおける活動の様子をパネルでご紹介します。小村全権の雄姿とともに、当時の雰囲気を感じていただければ幸いです。



【左上】講和会議が行われたポーツマスの海軍工廠

【右上】馬車で歓迎会場へ向かう小村全権

【下】ニューハンプシャー州知事の歓迎会での全体写真

1. 小村寿太郎 2. 高平小五郎

3. ヘンリー・W・デニソン 4. 佐藤愛麿

A. セルゲイ・ウイッテ B. ロマン・ローゼン

外務省外交史料館(本館)

東京都港区麻布台1-5-1 TEL : 03-3585-4511

外務省外交史料館(展示室)

東京都港区麻布台1-3-1 麻布台ヒルズ森JPタワー5階

TEL : 03-3589-0369

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/index.html>

